

## 発掘成果をふりかえって 2016

<http://www.kyoto-arc.or.jp>  
 (公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



1 寺町旧域(妙満寺跡) 中京区押小路通河原町西入榎木町

京都市役所の新庁舎整備に伴い、豊区秀吉によって開かれた寺町の妙満寺跡の調査を行なっている。写真の祖師堂跡は天明8年(1788)の火災後に再建されたもので、桁行7間、梁行4間半、西面中央には前拝を設けている。北の調査区では本堂跡も見つかっており、確認された遺構は妙満寺所蔵の『妙満寺志稿』の絵園と合致する。右下の石組遺構は中川の井と呼ばれた井戸跡である(西北西から)。



2 御土居跡 北区紫野花ノ坊町ほか

北西部の御土居は、紙屋川によって形成された河岸段丘上を盛土して土壇が築かれたと考えられてきたが、今回の調査で緩やかな斜面の一部を埋めて土壇と大走を構築していたことがわかった(南から)。



発掘調査の位置



3 平安京右京六条四坊一町跡・西京極遺跡 右京区西院清水町

古墳時代の堅穴建物跡が重複して複数棟あり、土師器・須恵器などの遺物が出土した。また、弥生時代中期後半の土坑には壺が納められており、完形に近い形で出土した（東から）。



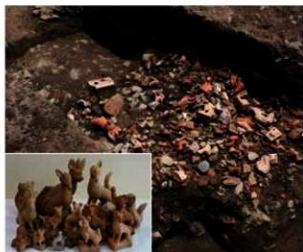
4 平安京右京七条一坊七町跡 下京区朱雀分木町

平安宮皇嘉門に通じる皇嘉門大路の東築地跡両側で、瓦片が落下した状態を検出した。東側溝の断面に地震痕跡が認められ、平安時代前期の地震で築地崩が倒壊した可能性がある（北東から）。



5 法住寺殿跡 東山区三十三間堂通り

蓮華王院三十三間堂で創建時（平安時代後期）の建物地業と土地造成の跡が見つかり、大規模な地盤改良工事（地業）が行なわれたことが判明した。地業は構築単位が確認され、縁に縄を並べ間を砂と粘土で突き固めた版敷が行なわれていた。写真左は本堂北側調査区の建物地業（北東から）、写真右は本堂西側調査区で、土地造成の跡（北西から）。



6 平安京左京五条二坊十一町跡・烏丸線小路遺跡 下京区高辻通堀川東入高辻町

元格致小学校内の発掘調査で、江戸時代後期の土坑からキツネの土人形が大量に出土した。学校に残る資料にも、大正時代の校内図の調査地点に「いなり社」と描かれていた（南西から）。



7 方広寺跡 東山区茶屋町・京都国立博物館敷地内

豊臣秀頼が復興した方広寺大仏殿南回廊の礎石部付跡と雨落溝、明治4年（1871）から2年間存在した慈明宮の石組溝などを発見した。慈明宮は絵図や文献が残されている（北から）。